

徒然なるままに…28

— 「ぶれ」ない授業づくりとは —



平成27年4月23日
白鳥小学校 研修部

新年度が始まって、3週間が過ぎました。新しい学級の準備やたくさんの行事のために、特に慌ただしい時期ですので、お疲れのことでしょう。子どもたちとも少しずつ慣れ、先生方それぞれの授業スタイルが展開されつつあるのではないのでしょうか。



今年度も、年度当初にあたり、広島大学大学院 木村博一先生にご講話いただきました。単元展開の仕方をキーワードに、教材のつくり方と内容の構成、単元の組立方について、丁寧にお話しいただきました。ここは、多くの先生方から、悩みとして挙げられる点であり、いつも、議論になるところです。「すごく分かりやすかった。」という先生方の声をいくつか聞くことができたので、意義ある研修会となりました。

さて、木村先生のお話が明解だったので、蛇足になるかもしれませんが、「『ぶれ』ない授業」をテーマに、今回の研修をまとめてみたいと思います。「ぶれ」ない授業をするためには、次の2点を「ぶれ」ないようにする必要があります。

1点目は、ねらい—内容です。つまり、その単元で貫いて考えさせたいことであり、その題材から見出して欲しい社会の仕組みや有り様のことです。学習指導要領や教科書をよりどころにして、その単元でねらう内容のアウトラインをつかみます。そこから、さらに具体的で、本質的な内容を構成し、それを含みこむ具体的事象、つまり、教材を選択することになります。

ここで、大切だと考えられることが二つあります。

一つは、指導要領に示されている内容は、ミニマム・スタンダードだということです。言い換えれば、抽象的で、ある意味普遍的に通用する域の内容です。これを知識として習得するだけでは、子どもは、変動している現実の社会を、実感を持って見るができないと思います。時間的にも、空間的にも身近で、探究したくなる題材をもとに、社会の動き、人々の生きる姿から、具体的に社会を見ていくことが必要だと思えます。

もう一つは、必要な内容と学習を精選して展開することです。社会科に限らず、「教科書にあるから。」とか「テストに出るから。」などと言って、その単元におよそ関係のない内容を扱っておられることがよくあります。それでは、必要な内容に時間と労力をさくできません。



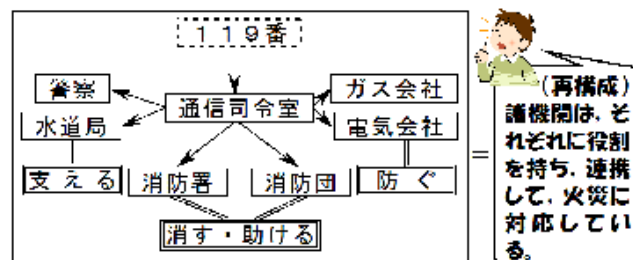
中学校の実践家として有名な安井俊夫先生は、説明と暗記中心とされることの多かった30年ぐらい前、様々な立場の人物の行動や思いにどっぷりと「共感」させる歴史授業を展開されていました。しかし、試験前や受験前になると、人が変わったようにその対策を

され、素晴らしい成果をあげておられたと聞いたことがあります。取り上げたい、教えたい内容を臆することなく貫く必要があると思います。

2点目は、思考一探究の筋道です。その単元で貫いて考えさせたい内容に、どのようにたどり着かせるかという思考の流れであり、問いを追究していくプロセスです。

私は、授業展開もそうですが、単元構成を考えると、「ストーリー」を描きます。この事実から問いが発せられるだろう。それを追究するためには、こんな事実やデータが必要だろう。そして、それらをこのように考えさせれば、今回のねらいに達するだろう。さらに、この事象を提示したら、関連させたり、迷ったりして、学習が深められるだろうというように考えるのです。

社会内の仕組みなら、一つ一つの働きを調べ、それらをつなぐストーリーで、地域の人々の生活や産業の立地なら、地理的な観点から条件を見つけていくストーリーで、人の行動や課題克服などのプロジェクトなら、時系列で追う「プロ



〈資料:「あんぜんな暮らしを守る」の内容構造〉

ジェクト×」ばりのストーリーでというように、教材や内容によって、ストーリーの展開が決まります。そして、思考をシミュレートしながら、「学習問題追究物語」を描くのです。このストーリーのよりどころは、教材・内容の構造です。具体的に、先日、研究推進計画でも示した3学年「あんぜんな暮らしを守る」を例に考えてみましょう。この単元は、「消防」を取り上げ、関係諸機関の連携に気付くことが貫く内容です。この構造が〈資料〉です。この構造から考えられるのは、「119番通報」から先で働いている様々な機関と働きを、通報から消火活動までのプロセスで調べていき、それらをつなぎながらそれらを構造化していくストーリーが考えられるでしょう。このような単元展開の後、構造として事象を認識した上で、吹き出しのように表現できるようにすることがねらいとなるのです。教材・内容の構造は、さらに板書に反映される必要があると思います。構造化というと、一見、難しいように思われます。以前、板書のうまい先輩の先生に、「学習内容を絵に描くように考えてごらん。」とアドバイスされたことがあります。構造化は、頭の中の認識を絵のように描くと考えられるのかもしれませんが、是非、取り組んでみてください。この図が指導案に載せられればいいのですがね。

なかなかゆっくりとお話ができない中で、何とかして、先生方と学びを共有化したいと思い、今年度も、懲りることなく、「徒然なるままに」書かせていただこうと思います。もしかしたら、かえって、分かりにくい内容になるかもしれませんが、お付き合いいただければ幸いです。授業づくりや社会科について、困ったことや相談などありましたら、いつでも声を掛けてください。いっしょに考えましょう。少し余裕が出てきたら、先生方の授業を見せていただきに、教室に伺いたいとも思っています。

これから、待たなしのスケジュールで授業づくりに突入します。これまでに積んできた研究と白島らしさを生かしながら、地道に先生方の実践を深め、子どもの育ちへとつないでいきたいと思います。今年度も、ご支援とご理解よろしくお願いたします。